

遺伝子倫理委員会議事録

日 時 平成 21 年 4 月 27 日 (月) 21 : 00～
場 所 病院棟 3 階来賓室
出席者 西尾教授・池上教授・楠教授・法学部 石田教授 (途中退席)
農学部 内海教授
欠席者 工藤教授・星合教授・濱田氏

議 題 1. 遺伝子倫理委員会のあり方について
2. 遺伝子倫理委員会新規申請ヒアリング
3. その他

1. 遺伝子倫理委員会のあり方について

遺伝子倫理委員会の開催時間が倫理委員会後であるため、また全委員が倫理委員会メンバーを兼ねているために、委員会の終了時間が遅くなる。特に外部委員の負担が過度である。倫理委員会のあり方を検討するのに合わせて遺伝子倫理委員会のあり方も検討してはどうかとの意見となった。

2. 遺伝子倫理委員会新規申請ヒアリング

別紙の新規倫理申請課題について、ヒアリングがあった。

3. その他

生殖細胞系列の遺伝子解析を目的とした臨床サンプルの取り扱いについては、特に海外への流出について従来から危惧するところであるが、いわゆる C 群サンプルについては、従来どおり当遺伝子倫理委員会の再審査を必要とする旨が確認された。

以 上

2009/04/27 遺伝子倫理委員会タイムテーブル

新規

受付番号	倫・遺	申請者所属	申請者	課題	時間
20-98	遺伝子	腫瘍内科	岡本 勇	臨床病期Ⅲb/Ⅳの局所進行・転移性非小細胞肺癌(NSCLC)患者を対象に、一次治療としてのASA404のパクリタキセル及びカルボプラチンとの併用投与によるランダム化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同第Ⅲ相試験	18:40
20-99	遺伝子	小児科	竹村 司	日本人若年性ネフロン癆患者の実態調査と遺伝子異常の同定	18:50
20-104	遺伝子	消化器内科	工藤 正俊	肝細胞癌患者を対象とし外科的切除術又は局所焼灼療法による根治的治療施行後に術後補助療法としてソラフェニブを用いた第Ⅲ相二重盲検臨床試験	19:00
20-108	遺伝子	腫瘍内科	中川 和彦	がん性疼痛へのモルヒネ治療に対する治療効果および薬力学的効果に関する探索的研究	19:10
20-114	遺伝子	外科	綿谷 正弘	ケモカイン受容体の発現に基づく新たな乳がん腫瘍マーカーの開発のための研究	19:20

20-99については、申請者の都合により次回の委員会でヒアリングすることとなった。